

この日本語訳は、IRPA letter Ble Guen 14 March 2022.pdfの仮訳であり、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPA及び一般社団法人日本保健物理学会はその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

加盟学会会長及びIRPA加盟学会各位

2022年3月14日

親愛なる皆様へ

ここ数年、世界ではコロナが大流行し、残念ながら対面での交流に支障をきたすなど、厳しい状況が続いています。私たちは今、最新のコロナ変異株の進化とワクチンへのアクセスによって、社会生活と専門的な交流が再開できることを望んでいます。

私たちは、特にウクライナの同僚とその家族、そして地域社会のことを思っています。ご存知のように、IRPAはNGOであり、政治的な声明を出すべきではありません。私たちはすべての放射線防護専門家を代表しており、今後、放射線防護に関する具体的な問題についてIRPAの支援を求められた場合、政治に関係なく喜んで支援するつもりです。私たちは、特にウクライナの原子力発電所周辺の日々の状況に注目しています。

昨年2月の第1回北米地域大会は、米国のセントルイスにてハイブリッド方式で開催され、200人の仲間が現地で大会に参加しました。セントルイス大会は正真正銘の成功で、次回ハンガリーのブダペストで開催される大会では、できる限り対面で開催できるようにと願っています。この後、アフリカ大会がガーナのアクラで開催され、まもなく南米・カリブ海大会がチリのサンティアゴで開催される予定です。ムンバイ（インド）で開催されるアジア諸国の地域大会は、2024年*に延期されました。様々なフォーラムを準備するためには、最終的に全員が「実際に」会うことができることが重要なのです。Ana-Maria (abomben@gmail.com)があなたのコンタクトパーソンとなります。

このような様々な場で、IRPAの最新の活動、特に今期採択されたIRPA戦略計画について、参加者の皆様にご紹介させていただくことになりましたので、ここに添付させていただきます。IRPAの戦略計画は、4つの分野に分かれています。

- 1- 放射線防護体系の見直しと改定に実務家の立場から貢献すること。
- 2- 放射線防護専門職の持続可能性と卓越性を促進すること。
- 3- IRPAが包括的で協力的な組織であることを確認すること。
- 4- リスクコミュニケーションを含む放射線防護の問題に関して、一般の人々とのより深い関わりを奨励すること。

また、若い世代のネットワークが策定した戦略計画（別添）を承認しました。

直近の理事会では、ワーキンググループを承認し、復活させました。皆さんの加盟学会では、我々の2022-

* 原文では2024年となっているが、実際は2023年2月7-11日に開催予定。

2024年の活動に参加する代表者を任命することができるかもしれません。2021-24年のIRPA戦略計画をサポートするために継続または設立されるワーキンググループは、新規会員募集の有無を含む簡単な詳細とともに、以下にリストアップされています。各タスクグループ(TG)の職務権限と現在のメンバーは、IRPA ウェブサイトでご覧いただけます。

加盟学会は、既存のTGメンバーで、そのワークストリームに引き続き参加する人、および/または、新たに参加する人をIRPA事務局 (abomben@gmail.com) に再確認するようお願いします。

組織反応に関するTG

委員長 Marie-Claire Cantone, イタリア

これは、以前の眼の水晶体に関するTGを拡張したものです。その目的は、眼の水晶体、心臓、脳の被ばくを含む組織や臓器における放射線の早期および晩発影響についての認識を高め、知識、経験、見解の幅広い交換を促進することです。推薦・再推薦は加盟学会にお願いしています。

一般公衆の理解に関するTG

委員長 吉田浩子, 日本

設立されたTGで、次期も継続されるものです。その目的は、優れた実務経験、アイデア、資料の共有を通じて、放射線リスクに対する一般公衆の理解を深める効果的な方法を開発するために、関連学会を奨励し支援することです。新規または再確認の指名は加盟学会からお願いします。

非電離放射線

委員長 Alexandre Legros, Julien Modolo

設立されたTGで、次期も継続されるものです。非電離放射線(NIR)の健康リスクについて、一般公衆への情報提供、被ばく限度に関するICNIRP勧告の説明、実際のNIRプログラムに貢献するための地域大会主催者への支援など、先のIRPA ECアンケートへの回答で示された側面、提案、期待について検討することが目的です。新規または再確認の指名は、加盟学会からお願いします。

高等教育・研究・教育

委員長 Pete Cole, 英国

設立されたTGで、次期も継続されるものです。その目的は、高等教育・研究・教育(HERT)分野における放射線安全文化の国際的な概観を提供し、HERT放射線安全文化の開発と改善において実務者を支援するための資料を開発し普及させることです。新規または再確認の指名は、加盟学会からお願いします。

NORM

委員長 Rainer Gellermann, Jim Hondros

設立されたTGで、次期も継続されるものです。NORMの問題に対する認識を高め、良好事例の文書のライブラリーを開発・推進し、実務家の経験を収集・報告することで政策立案者、規制当局、業界に影響を与え、NORMに対する管理が実際の放射線リスクに見合ったものとなるようにし、NORMでの作業における放射線防護の倫理的基盤に関する世界規模での格差を明らかにし、業界やその他の組織と関わり、段階的アプローチを適用した実践的解決法を促進することを目的としています。新規または再確認の指名は、加盟学会からお願いします。

放射線防護体系の見直し

委員長 Sigurdur Magnusson, アイスランド

新しい TG です。その目的は、RP 制度の見直しと改定を行う ICRP のイニシアチブについて、加盟学会に情報を提供し、IRPA を通じて、あるいは独自にフィードバックを行うよう奨励し、幅広いコンセンサスのある分野と専門家の意見のスペクトルを反映した意見を集約することです。この TG への推薦は 2021 年中に受理されており、これ以上の指名は受け付けていません。

放射線における女性

委員長 Marina Di Giorgio, アルゼンチン

新しい TG です。IRPA 内で RP におけるジェンダーの視点のための経験や価値観の幅広い交流を促進し、RP における女性のための IRPA ステートメントを作成することを目的としています。この TG メンバーへの推薦を全加盟学会から募集します。

医療における放射線安全文化

委員長 Bernard Le Guen, フランス

新しい TG です。その目的は、医療における放射線安全文化に関する新しい IAEA/IOMP/IRPA/WHO 出版物の実施において加盟学会を支援し、この分野の進捗をレビューすることです。この TG への推薦をすべての加盟学会から募集します。

今月初め、皆様には Ana-Maria からシーベルト賞の推薦を提出するよう促すメッセージが届きました。2022 年 12 月 31 日までに IRPA 副会長の Christopher Clement (clement@irpa.net)に提案いただくことをお忘れなくお願いいたします。

IRPA を代表して、皆様の積極的なご参加に感謝いたします。

次回の IRPA 地域大会で直接お会いできることを楽しみにしています。

Bernard Le Guen

IRPA 会長